

電 力 情 報

NO. 52

平成26年11月26日

東 北 電 力 (株)

10月分の電力需給実績について

1. 電力需要について（表 - 1 参照）

10月分の販売電力量は、58億5,400万kWh、対前年比98.5%の実績となりました。東日本大震災からの復興の動きが続いているものの、節電への取り組みなどから、2カ月連続で前年実績を下回りました。

用途別の実績については、以下のとおりです。

特定規模需要以外の需要（自由化対象以外のお客さま）

電灯は、東日本大震災からの復興の動きが続いていることに加え、前年と比較して検針期間が長かったものの、節電への取り組みなどから、対前年比100.0%の実績となりました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比99.7%の実績となりました。

特定規模需要（自由化対象のお客さま）

業務用電力は、需要回復の動きが続いているものの、節電への取り組みなどから、対前年比95.8%の実績となり、2カ月連続で前年実績を下回りました。

特定規模需要の合計では、対前年比98.0%の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

大口電力

大口電力は、復興需要や生産回復の動きが続いているものの、一部での生産減や自家発の稼働影響などから、対前年比99.0%の実績となり、3カ月連続で前年実績を下回りました。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

10月の発受電電力量の合計は、64億5,200万kWh、対前年比97.8%の実績となり、3カ月連続で前年実績を下回りました。

（自社水力）

出水率は前年を18.8%下回る91.8%の湯水となったことなどから、発電量は前年を5,500万kWh下回る4億2,900万kWhとなりました。

（自社火力）

運転状況の違いなどから、発電量は前年を9億6,700万kWh下回る40億2,500万kWhとなりました。

（自社原子力）

定期検査により、女川原子力発電所の全号機と東通原子力発電所1号機が運転を停止していることから、発電量はありませんでした。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の運転状況の違いなどから、発電量は前年を2,700万kWh上回る8,700万kWhとなりました。

（他社受電）

他社火力の運転状況の違いなどから、他社受電合計では前年を6億4,400万kWh上回る22億6,800万kWhとなりました。

以 上